

会 議 結 果 の お 知 ら せ

令和7年度宮古市自然環境保全専門委員会議を次のとおり開催しました。

令和7年11月12日

宮古市自然環境保全専門委員会議

- 1 開催日時
令和7年10月29日（水） 午後1時30分～午後3時00分
- 2 開催場所
本庁舎2階2－1会議室
- 3 議題
 - (1) 自然環境現地調査結果の報告について
 - (2) 動植物等の状況について
 - (3) 令和8年度現地調査候補地について
 - (4) 令和8年度以降の体制について
 - (5) その他
- 4 会議の概要
別添のとおり
- 5 問い合わせ先
エネルギー・環境部環境課環境係 電話0193－68－9078

令和7年度宮古市自然環境保全専門委員会議録

1 開催日時

令和7年10月29日（水） 午後1時30分～午後3時00分

2 開催場所

本庁舎2階2－1会議室

3 出席者（3名）

三浦 秀明、関川 實、加倉井 理佐

4 欠席者（1名）

佐々木 剛

5 事務局出席者（3名）

エネルギー・環境部環境課長 小笠原 雅明

エネルギー・環境部環境課副主幹兼環境係長 金澤 美智子、同係主任 佐藤駿

6 傍聴者（0名）

なし

7 議事等

【協議】

（1）自然環境現地調査結果の報告について

今年度は長沢地区、黒森山及び蜂ヶ沢で実施した自然環境現地調査結果報告について事務局から説明した。その後、各委員より調査報告書概要及び補足事項について説明があり、各委員の報告について質疑を行った。

（2）動植物等の状況について

事務局より市で把握している動植物等の状況について報告した。その後、各委員から市内の動植物の状況について報告があった。

（3）令和8年度現地調査候補地について

今後の本委員の調査目的を明確にし、調査手法を整理・統一することも踏まえ、令和8年度現地調査候補地について協議をした。

（4）令和8年度以降の体制について

委員が減少している状況から、今後の体制について別途相談することとした。

質疑応答内容

質問・意見	回答
【(1)自然環境現地調査結果報告について】 (委員) 標本作製時に気づいたが、資料3頁、(黒森山)昆虫のハスジカツオゾウムシはカツオゾウムシ、(蜂ヶ沢)昆虫のミヤマカワトンボはニホンカワトンボ、ハンノキハムシはルリハムシが正しい。 (委員) 黒森山及び蜂ヶ沢で、珍しい鳥はいなかった。これまでは、9時から10時頃に野鳥の鳴き声が聞こえていたが、競争する個体がないことや、野鳥の個体数が減っており、鳥の鳴き声が少なかった。 (委員) 40年前、コジャノメは珍しく、宮古市が北限とされていた。今回黒森山にコジャノメが多く生息していることを確認した。採集し繁殖させたところ、コジャノメは年2回交配するという知見が得られた。 (委員) 蜂ヶ沢は典型的な里山であって、人が住まなくなり、森林に遷移している様子を確認できた。 (委員) 蜂ヶ沢が牧野の頃は、人が住んでおり、クララ(オオルリシジミの食草)等の草原性植物はなかったが、現在は人が入らなくなったため、クララが生育しているものとみられる。	

(委員) オオルリシジミの生息地は、九州の阿蘇地域か。 【(2)動植物等の状況について】 (委員) 田老小学校や赤前でハクビシンを見かけたが、令和7年度のハクビシンの被害はないか。 (委員) 毎年、入山するとクマ棚があり、タカノツメの実、ドングリや栗の笠が落ちていたが、今年はクマの形跡や木の実がない。 (委員) 現在クマの餌がない状態である。月山展望台付近のアオハダの木や旧赤前保育園の大木はクマの餌だったが伐採され、餌が少ない現状につながっている。 (委員) 私は浄土ヶ浜に常駐しているものの、ツキノワグマを確認していない。過去に浄土ヶ浜でクマによる人身事故が発生した経緯もあり、クマ出没時のマニュアルを策定する予定。 【(3)令和7年度現地調査候補地について】 (事務局) 調査について、目的と目標年度を明確にして、調査手法を整理・統一し、定性的・定量的な経年変化データをとれる形に整理したいと考えている。 例えば宮古、田老、新里、川井のそれぞれで代表的な、あるいは顕著な変化のある地点を数年ごとに定期調査し、そのデータを蓄積することで、市の施策への反映などがしやすい	(委員) 現在は、長野県や新潟県に生息している。青森県や盛岡市も生息していたが、宅地開発の影響で絶滅した。 (事務局) 例年、ハクビシンの有害鳥獣等捕獲許可申請書が提出されるが、今年度は個人で1件を許可したのみ。 (委員) 環境省の調査はそれぞれ目的があるが、黒森山の現地調査では、調査場所をあらかじめ絞らず選定したことが新しい知見につながったと思うので、一概には言えない。 例えば、宮古市環境基本計画の環境管理指標から逆算して調査場所を決定し、経年変化を確認するのはいかがか。
--	--

くなることが望ましいと思うがいかがか。 (委員) 宮古市でのレッドデータブックにおける絶滅危惧種のおおよその生息地はわかるが、人が立ち入れない危険な場所が多い。 (委員) レッドデータブックに記載の希少種は、鳥類、昆虫、植物で生息地が異なる。また、私も年を取れば委員を続けられなくなる。ずっと同じ人が調査を継続できるとは限らないため、経年変化の確認は難しいのでは。 (委員) 例えば、希少植物でなくても、各地区に生息する植物リストに調査結果をもとに作成するというのはどうか。 (委員) 現地調査の目的を動植物のリストの作成とするのか、環境の変化の確認とするのか。リストの作成と言っても昆虫は何千種いるため年2回の調査でわかるものではない。 (委員) 例えば、今年度はクマの出没が多いとか、その年に問題になっていることに焦点を当てた調査はいかがか。 (委員) 従来通りの調査は協力したいが、本格的な調査であれば専門家に依頼してほしい。 私としては、決まった場所に加え、都度設定した場所の調査が良いと考える。	(事務局) おっしゃるとおりあまり奥地には行けない。行ける範囲で調査場所を選定することになる。 (事務局) それであれば成果としてリストができて、委員が変更となっても引き継ぐことができる。 (事務局) 年2回のうち1回は定点、もう1回は従来通り、毎年調査地点を決定する形ではどうか。 (事務局) 調査場所の選定の考え方について事務局で整理し、改めてご相談します。
--	---

【(4)令和8年度以降の体制について】 (事務局) 委員数は年々減少している。今後の体制について後ほど相談する。	
--	--